

心靈體驗 · · ·

ageha-love

海辺のホテル

これから書くことはジブンの体験を元にしていきます。

脚色などはしていませんが、信じる信じないは読んでいる貴方しだいです。

ある日客先へ向かう途中に地下鉄の電車の中で見かけた吊り広告には、こう記してありました。

『バスで行く○○ツアー、お一人様伊勢エビー匹付き』。　そういえばここんところ妻と温泉旅行に

行ってないな～と軽く思ったジブンは早速中吊り広告をデジカメで写真に撮り、その日帰宅してから

妻に写真を見せてネットで検索してみました。

都内近郊の駅でバスに乗り込めばそのまま昼飯を食べて、観光地を回ってからホテルに入るとい

う内容のバスツアーでした。

値段も9,980円という事で早速ネットで申し込んでみると、予約番号が表示されたのでその画面を印刷

して当日を待つことにしました。

当日は朝から良い天気です。二人分の1泊の荷物をまとめて、最寄りの駅から電車に乗り込みました。

普段は車で旅行に行くことが多いので窓からの風景を二人で眺めて、「どんなところかな？」

「伊勢エビってどんなかな～？」などと話をしながらいると、ほどなく着いてバス停まで歩いて行きました。　バス停には旅行会社の係員がいて予約番号を告げたところ、「もうすぐバスがきます。」

との事だったのでバス停の近くで待つ事にしました。

ほどなくバスが着いて乗り込みました。

バスは街中から郊外、高速に入ります。　2時間ほどで高速を降りて山道をバスは走ります。

途中観光地で酒蔵を觀たりして昼食場所では昼食にエビをかぶりついて食べて満足しておりました。

大体の日程が終わって夕方にはホテルに到着します。

『えっ？このホテル？』　着いた瞬間に背筋に冷たい水をかけられたようになり、昼食で飲んだビールも一気に醒めてしまいました。

ホテルは歴史がある感じで古そうでしたが、改装を済ませたばかりか外観は新しく見えます。

しかし、ホテルの建物から感じる雰囲気は異質です。　普段から靈感体質で感じることが多いジブン以外にはそう感じる人はいないようです。

そしてホテルのロビーで部屋の鍵を渡され、指定された部屋に行ってみると、確かに内装も改装して

そこそこキレイにしたように伺えます。でも、部屋の風呂場、トイレはとても改装直後とは云えない

ほど歴史を感じるつくりでした。

妻からも「なんか古びてない？でも、あの値段だしね～」と。古さは感じたようです。

吊り広告にあった『窓から広がる太平洋』に嘘はありませんでしたが。

部屋でのんびりしてから温泉に入ることにしました。

男性、女性別々に大浴場があって入ってみたのですが、大浴場？とちょっと首をかしげる大きさの

浴場です。それでも、海辺の温泉に浸かって何とか疲れが取れるといいなと思っていました。

部屋に戻ってみるとほどなく夕食の時間。夕食はホテルロビーの隣のレストランで頂きます。

部屋ごとに座るテーブルが決まってて、確かに伊勢エビがついてきました。大きさはおいといて。

そして、ジブンはそれまでホテルで感じていた嫌な感じを吹き飛ばすようにビールと日本酒を飲んで

いました。せめて酒でも飲んで泥酔状態で寝ればいいだろう。直感的にそう感じていたのです。

広いスペースで飲んでいたこともあり、泥酔状態までは無理だったので部屋に戻ってから、階段脇の

自動販売機でビールを買って更に部屋で飲んでから寝ることにしました。

ビールを飲みながら妻と途中立ち寄った場所の話とか夕食の伊勢エビの話を一通りしたあとで11時くらいで二人とも普段の疲れから休むことにしました。

ぼや～とした意識が戻るまでどのくらいだったのでしょうか？突然、ジブンの意識がはっきりと

しました。そして、その瞬間に感じたのは目の前にある人の顔の気配。

ただ、その気配は普通に生きている人ではない！直感的に感じたんです。

目の前の気配の女の人はジブンに問い掛けてきます。

『あたしはどうしたの？』『あなたは誰？』『どうすればいいの？』と。

決して言葉では言いません。直接ジブンの意識の中に言葉が入ってくる、という感じです。

当然のことながらジブンは眼を開けていません。ただ、その気配を持っている存在はジブンの目の前に

います。感覚だけですが、その女の人の顔まではっきりと判ります。戸惑っている表情までまるで目の前で観ているような感覚です。

ここまでどのくらい時間が過ぎたでしょう。ジブンは直感的に感じたのは「やばい！」

その瞬間に決めたのは心の中で般若心経を唱える事です。

普段の生活では般若心経を唱える事など無いかもしれませんが、ジブンは趣味でお経を聞いてた

ので
唱えることができました。
『まーかーはんにゃーはーらーみったーしんぎょう〜』何回唱えたでしょう。
その間にもジブンの意識の中にはその女の人の意識が入ってきます。
その時に判ったのはその女の人は昔この近くの海で船に乗っているときに船が難破して船と一緒に
沈んでしまったということ。 そのあと彷徨ってこの近くの親戚に行っても誰も相手にしてくれ
ない事。

などなど・・・

そのうちに何回かお経を唱えていると気配は少し遠くなって部屋の中をフワフワと漂っています。
別に体が金縛りで動かないと云う事はありません。 ただ、恐怖で体を動かすことができません。

そして何回か何十回か、のお経を唱えたところで気配は窓から太平洋に向かって出て行きました。

気配が出て行ったところで、体の力がどっと抜けると全身から汗がどっと噴き出します。
浴衣も全身汗びっしょりです。

布団もタオルケットも全部汗びっしょりで濡れています。 気持ちの悪さに寝返りをうちました。

すると・・・妻が『どうしたの?』と目覚めたようです。

『いや、ちょっと汗かいたから』と云うと部屋の電灯を点けました。

『なに?汗びっしょり。 暑いのか?』

『いや、そんな事はないよ。』『のど渴いた』 とうとう水を飲んで寝ることにしました。

ジブンが観たこと、感じたことをそのまま話しても妻が怖がるだけだったので、さらっと流して
再度眠りにつきました。 確認したときには時計は午前3時半頃だったと記憶しています。

それから少しして目覚めると今度こそ夜明け目前、太平洋の夜明けを観ることだ出来る時間
でした。

妻も起きてきたので、そのまま部屋で時間を過ごしてから朝食前に目の前の海岸を散歩してから
朝食を済ませましたが、その後ロビーに行ってチェックアウト、一番早い帰りのバスに乗り込む
ことに
しました。

バスが来るまでは15分ほどでしたが、10分ほどでバスが来て二人で乗り込みました。

乗客はジブン達を入れても4人ほど。

運転手さんが降りて誰も近くにいないところで妻が聞いてきます。

『ゆうべ、なんかあった？』

妻はジブンの体質まで知っているので薄々感じていたようです。

ホテルも離れて大丈夫そうだったので、「実は・・・」と昨晚の体験を話しました。

『やっぱり・・・』

近くに灯台のある、岩場の近くのホテルです。 以前は難破した船も多かったのでしょうか。その中には知らずに沈んでしまった人も多かったでしょうね。

母とジブン

今回の体験談は正確には心霊体験とは呼べないかもしれません。

怖いと言う事も無く普段の日常でふと体験したことなので。

その日は土曜日で父は早くに仕事に出かけ、ジブンは寝ているところを妹に叩き起こされて、ジブンの車で妹の通う高校まで送って帰宅してから自宅の居間で母親とのんびりとテレビを観ていたときに、その現象は起きました。

母親は夜近所の料亭で仲居さんの仕事をしていて、昼間は比較的のんびりと過ごしており、ちょうど昼食を食べ終わって片付けも終わって二人して居間でお笑い番組を楽しんでました。

そろそろ妹から迎いの電話でも入るのかな～面倒だな～と思っていると、突然自宅の玄関を開ける音が盛大に『ガラガラ!』と響いたのでした。しかし、それだけで『ごめんください。』とも『こんにちは。』とも声はなく、ただ時間だけが過ぎていきます。

4, 5分経った頃に母親に話しかけました。

ジブン：『いま、誰か玄関を開けたよね?』

母：『いや、誰か廊下を歩いてきたけど、玄関は開いてないよ。』

ジブン：『玄関、開ける音聞こえたよ。』

母：『玄関が開く音は聞いてないけど、誰か廊下を歩いてきたよね。』

と今度は母が言い出します。

ジブン：『えっ? 誰も歩いてなんかこないよ。』

母：『誰か、玄関からこっち（居間）に歩いてきたよ。』

ジブンはその足音は聞こえていません。

ジブン：『でも、玄関開けて入ってこなきゃ、誰も歩いてこないんじゃない。』

母：『そうだけど。。。じゃ、玄関観てみて。』

ジブン：『でも、帰ってきてから鍵かけたよ・・・』

そう、妹を高校に送ってからジブンが帰宅して、母は外にでていないのです。

不審に思って居間の襖を開けてみましたが、当然廊下には誰もいません。

玄関まで行って確かめると鍵はかかったままです。

そう、ジブンの家では母親とジブンが俗に言う『靈感が強く』、父と妹はまったく感じないのです。

その後、母親といろいろと話をしたのですが、ジブンが玄関を開けた音を聞いて少ししてから母は玄関から廊下を居間に歩いてくる足音を聞いていたというのです。

二人してまったく違う架空の音を違うタイミングで聞いていたのです。

それにしても、泥棒とか強盗とか全然考えなかったのは、ある意味変かもしれません。

それから母親とジブンで『不思議なこともあるもんだね〜』とかなり脳天気な話をしていました。

そして、少ししてから母親が言い出したのは、

母：『誰か、ご挨拶にきたのかも知れない。』

母：『たぶん、あんたも知ってる人だよ。 だから、玄関を開ける音を聞かせたんだよ。』

そう、ジブンの家は父の勤め先の都合で東北地方を転勤して回り、その間にその土地土地の人達と

それなりに仲良く過ごしていたのです。

母の感では、その時に知り合って仲良くして貰った人達が亡くなるタイミングでかなりの確率で家に挨拶に来ていたとの事。

ある時はその人からもらった茶碗だったり、声だったり現象は様々でしたが、何かの異変があるんだそうです。

2日後に仕事から帰宅すると母から告げられました。 ジブンが小学校の頃に住んでいた街でお世話になった百貨店のご主人が亡くなったとののがきが来たそうです。

母とジブンの変わった体験でした。

幽体離脱してみますか？

怖くない話が続きます。ま、改めて考えるとそんなに大した体験はしていないのですが・・・

みなさん、幽体離脱ってごぞんじですか？

人間の体が肉体と精神とが合わさって始めて、一人の人格として扱われる（肉体だけなら死体と一緒に）という考え方から、更に精神部分を幽体という精神構造体として考える考え方があります。

人によっては幽霊も幽体の一部として扱う人も多いわけですが。。。

その幽体が肉体から離れることを幽体離脱と呼ぶわけですが、ジブンは今まで何回か幽体が離脱した経験があったりします。

気がつくと元に戻っているので別の幽体が入ったと言うことはないはずですが。

最初の体験は高校生の時に自宅で本を読んでいる時におきました。

かなり厚い本を読んでストーリーも途中までは覚えているのですが、途中でふと意識が無くなってしまっていたのです。

気がつくとすぐ下に本を読んでいる格好をしたジブン自身が見えるではありませんか。

周りを見るとジブンの視点は部屋の天井近くにありました。『あれ？ジブンがいる？』そう思った瞬間には元の本を読んでいる格好でした。

そして、視線は今まで読んでいたはずの文字を追っています。

その瞬間におかしい事に気がついたのです。『あれ？いままで天井近くにいたはずなのに・・・』

このときが初めての体験でした。ただ、その頃は幽体離脱なんて言葉も知らずに『変だな～』くらいにしか思わなかったのです。

2回目は高校の夏休みの最中に起きました。

その日は中間登校日で夏休みのど真ん中の日に登校しなければいけない日だったのですが、自転車をこいでる途中で面倒になって行くのを止めて、自転車のタイヤを元来た方向に向けた瞬間でした。

瞬間何が起きたのか判らずでしたが、ジブンが路面に寝そべっています。隣には自転車が横倒しになっています。

『何してんだ俺は？』と思うと大人が3人駆け寄ってきて『大丈夫か？』と寝そべっているジブンに声をかけています。

その声をはっきりと聞こえた瞬間に意識が寝そべった格好のままで戻りました。

別に痛いところも無く、周囲の大人の云う事も上の空で『また、ジブンが観れた。』と考えていました。

何が起きたかというときジブンが自転車の前輪を横に向けたときに、すぐ横を走っていた車が前輪

を引っかけた。 その衝撃でジブンは自転車ごと倒されたという訳です。 交通事故だったので、

その後は余り変な事も無く極々普通に暮らしております。

幽体離脱して上空から地上を観たいとか変な事を考えることもありますが、特にそういう事も無くでした。

ところが、昨年変な事でまたしても経験してしまいました。

それは会社での宴会の帰りに駅の階段で起きました。

その日は新入社員の女の子の歓迎会で(今の子が産休を取得するので)、しこたま生ビールと焼酎を飲んでから電車で帰宅するときに電車内で寝込んだのですが、運良く降りる駅の2つ前で目を覚ますことが出来ました。

それでもビールと焼酎の酔いはまだまだ十分に残っていて目的の駅で電車を降りたのは良いのですが足はふらふら。

高架駅でしたので、階段を下りるときに足を踏み外して途中まで転げ落ちてしまいました。

ただ、ジブンの意識は転げ落ちる説く禅に体を離れてしまい転げ落ちるところまで目撃できませんでした。

そして、途中でのびているジブンを上から見下ろしているのです。

おかしなもんですよ。 ジブンが転げ落ちる瞬間を見ることが出来るなんてそうざらにはないですからね。

酔って体はふらふらでも意識は全然酔ってないんですよ。

その中でジブンの意識は『あ～あ、落ちちゃったな～』程度しか考えて無いわけです。

その瞬間に意識は体の位置で目覚めました。

階段を10段くらい落ちたにも関わらずけが一つ無し、痛いところも無く。

ただ、体は酔っているのでふらふらしながら残りの段を下りていきました。

ジブンの体と意識が全く別の物でそれが分離移動が可能だとしたら、精神部分だけが瞬間移動とかできそうですね。

金縛り？

金縛りの話です。

今では滅多にありませんが、20年ほど前まではよく金縛りにあってました。

一番の買った頃はほぼ毎晩のように金縛りになってました。

それも今ジブンの実家となったところで寝るようになってからです。変な話ですが。

ジブンの父は東北の農家出身で六男坊だったこともあり、家を出て農家ではなく別の職業についていました。別にやましい仕事でもないですが、ここでは名言を避けておきます。

で、仕事の関係で転勤が多かったため、ずっと東北地方を転々として家は建てていませんでした。

それが、ジブンが高校を卒業して都内に出てきたのをきっかけに東京近郊で家を建てることにして土地を探していました。そのうちに仕事関係の組合組織で東京都近郊の新規分譲地の区画販売をすると云う事でそれに応募することになり土地を見に来たりして最終的には購入に踏み切りました。

その後母の兄弟が大工やら左官屋、塗装屋も居たことで親戚関係に頼んで家を新築しました。

両親の部屋、居間、ジブンと妹の部屋付きで（まあ、かなり不満があり）。

ただ、ジブンはいろんな事情で会

社の独身寮から実家に移るまでは1年とちょっと経過したあとでした。

ただ、そのジブンの部屋となった場所は当初から何となく不気味な雰囲気がありました。

南と西に窓があるのですが、普段どうしても西側の窓を開ける気にならないのです。

なんか、窓の外側に変な気とでも云うのでしょうか？何かを感じるのです。

と言っても何も見えるわけではなく・・・・・・・・

そのうちに部屋で寝ていると金縛りにあうようになりました。

それもほぼ毎晩のように・・・

当初は金縛りにあうだけで、気がついてみると身体が動かない、って状態だけだったのですが、だんだん変な感じになってきます。

金縛りに遭っているときは基本的には眼を開けないようにしているのですが、何となく気配を感じるようになってきました。

ジブンが寝ている布団の周りをゆっくりとまわっていたり、そばに立っているだけだったり、その晩によって違うのですが、かなりの確率でそばに気配を感じるようになってきました。

さすがにこれはやばいかも？と思い始めて、どうしようか？といろいろと考えてみたのですが、明暗はそうそう浮かぶわけもなく。

金縛りと変な気配は毎晩だし。毎晩続くと慣れてくるって云う人もいますが、ジブンは慣れないですね～

そうこうしているうちに西側の窓を閉め切っているのに母が気がつき『西になんかあるの？』と

聞いてきました。母譲りの体質なんで『実は・・・』と事の次第を話したのですが、母も少し感じていたようです。ただ、母もそういう人達がこないようにする術を知っている訳でもないし、とりあえず実害はないので当面はほっておくことになりました。(ジブンの寝不足は実害に入らないらしいので)

その後3ヶ月ほどして正月の元朝参りに行った際に神社で破魔矢と御札を買ってきて西側の窓の上に作った棚に飾っておくことにしました。

当然毎朝水とお供えをして祈って（挨拶かな？）みたところ、それからは怪しい気配も感じなくなりました。

その後その土地についていろいろと聞いてみると、実家の土地の近くに旧日本軍の病院があったらしく、かなりの重病人が死んだらしい。という事が判りました。それも実家の西側に・・・

金縛りは科学的に解明されたと云っている人もいるらしいのですが。

危ないダム湖と橋

どうも～ こっち側の投稿は久しぶりになりますね。

前からの投稿しているとおり、ジブンは他の人よりちょっとばかり靈感が強い体質なわけですが。

何故か『怖いもの見たさ。』の方が興味津々です。

そして、ネットで心霊スポットを見つけては『行こうかな?』なんて考えてしまううつけ者です。

そんな時に本当に行動を起こしてしまった事があります。 ちょう～やばいんですけどね。

場所は埼玉県と群馬県の県境にあるダムにかかる赤い橋。ここまで云えばどこだか判りますね。テレビでも紹介されるほど有名なスポットです。自殺の名所とかいろいろと云われているところですね。

ジブンは朝起きてから支度してFDで出かける事にしました。

埼玉県南部在住なので結構な距離がありますが、ウキウキドライブ気分です。

やがて、山道に入って段々とその場所が近くなってくると、タイヤ1回転ごとに頭が重くなってくるんですね。そうとしか形容できない厭な感じです。道がダム湖の周囲に変わって橋を目指して運転しているのですが、途中のトンネルを過ぎるたびに厭な感じはどんどんと頭痛に近い感じに変わっていきます。

そして何個目かのトンネルを過ぎた時点で頭痛によりギブアップ。 本能が『これ以上近づくと危ない。』と危険地域へ近づく事を拒否し始めました。

その時点で車を道ばたに停めて、後続車や対向車が来ない事を確認しながらUターンしてダム湖からほぼ逃げ帰ってきました。

ジブンは近づけないもっとも危険な場所ですね。 あれ以上近づいたら発狂してたのか？

それ以来二度と似たような場所には近づかない事にしています。

久しぶりの幽体離脱

いや～ 久しぶりに幽体離脱してみました。 別に狙ってした訳ではないです。

先日まで久しぶりに中国に出張で行ってきまして、先日飛行機で帰ってきたんですけど・・・
帰りの飛行機の中で半分寝てて、半分意識がある状態でうとうとしてたんですが、
帰国時は成田空港から車を運転する必要があるので、酒は飲んでません。

オレンジジュースとか水程度しか飲まないんですが。

疲れからかうとうとし始めて耳からはかなりすっ飛んだ内容のポッドキャストを聞きながら・・・

そして、ふと気がつくとも意識は飛行機の外へ、行ってました。

寝ている姿勢のまま飛行機の外で風を感じる事も無く、下を覗くと遥か下に地上が見えます。
元々高所恐怖症の気があるジブンですが、余りにも高度が高く高所という認識が薄いせいも、余り恐怖も感じずに済んでますが、意識の中では『やばいよ。下が無いよ。シートはどこ行った？』
そう、完璧に寝ている姿勢のまま幽体だけが飛行機の外にいるんですよ。

昔、自衛隊のヘリで体験飛行した時に1000メートル以上上空から下を覗いた時と同じ感触でした。

そのうちに下界の風景を楽しんでいる最中にまた、ふと気を失うような間隔で、次に目が覚めた時は無事に飛行機の中でした。

何回体験しても慣れないですね。